

2009

8

目次
CONTENTS

2 ぴちぴち那珂っこ

4 水鳥 歴史民俗資料館だより

7 65歳以上のかたの
介護保険料改定

8 国民年金保険料の免除制度

9 那珂市消費生活センターです

10 協働のまちづくり ほか

11 まちの話題

14 Information

16 「出張！なんでも鑑定団 in 那珂」
お宝大募集！ ほか

18 さわやかさん、表紙の裏側 ほか



みんながだいすきな夏が来たよ！元気いっぱいあそぼう！（菅谷保育所）

水鳥

歴史を伝える資料には、土器類や遺跡などの考古資料、文書や刊行物などの文書史料、建造物や歴史を見つめた天然記念物、生活を想像させる民俗資料などさまざまなものがあります。先人の生き方を次世代に伝えるこれら貴重な資・史料を保存することは、現代人の私たちにとって大切な役割です。そのような中でもすれば忘れられがちな「写真」や「フィルム資料」も立派な歴史史料です。

今回の特別展「フレームの中の郷土史」では、祭り くらし ことも 学び舎 まちなみ 戦争の6つのテーマに分類し、収蔵品や市民のかたがたからお借りしたものおよそ150点を展示しています。これらの写真資料をとおして郷土の歴史を振り返り、将来の在り方を考えてみようとするものです。9月6日(日)まで開催していますので、ぜひこの機会に歴史民俗資料館にお越しください。

さまざまなメッセージを送る写真展

「フレームの中の郷土史」

（今と未来の生活を考えるよすがに）

1 祭り

[festival]

「祭り」は本来、民族の祖霊や祖先に感謝の念をささげ、天地自然の恵みに感謝することであり、神仏に対し誠をささげ神意になうようみんなが一つの心にとまり、よりよい社会を築くことにあります。そのために、地域住民がそろって市内の神社仏閣や祠堂のお祭りを行ってきました。大きなものでは常陸第二の宮 静神社の春季秋季例祭、菅谷鹿島神社の「大助祭」、額田神社（鹿島神社）の「八幡神社」の御田植祭、瓜連常福寺の二十六夜尊祭などがあります。中でも静神社の御輿が酒列磯前神社まで出社する「磯降り祭」は、村松大神宮の御輿や競馬と流鏝馬の神事が加わる「ヤンサマツリ」と相まって勇壮な祭りとして注目されてきました。



●磯降り祭

（静神社提供）

この磯降りは、俗に徳川光圀以来の神事とされていますが、記録ではそれ以前からともいわれています。磯降りの神事は、磯崎海岸の護摩壇に漂着した神霊が、静の森まで上がって鎮座し、再び磯に降りて清めるものとして重んじられ、五穀豊穣や無病息災の祈願はもちろん特に大漁を祈願する漁民たちの信仰は厚いものでした。ただし、渡御途中の村々の畑や出店に被害を与えるなど「暴れ御輿」でも有名で、しばしば出社禁止の命令を受けて中断しています。戦後は昭和27年8月の神事をもつて終わっていますが、漁業や農業など第1次産業の衰退は祭りの復活を困難にしているようです。

2 くらし

[life]



●藤田床屋前（菅谷）【昭和25年】

（藤田満男氏提供）

現在のような物質的に豊かなくらしは、昭和40年代から始まった高度成長によるものです。戦後は電話や自家用車など家庭用品の所有数や道路の舗装率など、何につけても欧米の生活と比較して問題とされました。

9月6日(日)まで
開催中です！



歴史民俗資料館

た。しかし、当時の国民は経済的には現在とは比較にならないほど恵まれない生活でしたが、みなが希望を持って生き生きとまたゆとりを持って生活していたのではないのでしょうか。町や村には活気もあふれ、地道に黙々とまじめに働く人々がほとんどでした。今日の社会にあふれる偽装や詐欺などは予想もできなかった

③ こどもたち

こどもたちにとっての幸福や喜びとは何でしょうか。親の愛情があり、遊びがあり、夢があり、適当に小遣いがあることでしょうか。流行に敏感だったのもこどもたちです。昭和30年代に流行った「シェー」をするこどもたちの姿は楽しさいっぱいです。

小川や溜め池、田んぼも遊びの場で、釣りやドジョウすくい、カエルを捕まえてのエビガニ釣りは二ワトリの餌などと自然とともにあり生活にも密着していました。親はこどもの幸福を願って神社仏閣に参拝し、祭りにも参加しました。文殊院での稚児行列など観音信仰も健康な成長を祈ったことです。

ケンカはありましたが、陰湿ないじめは少なかったでしょう。携帯メールでのいじめは、落書きと同じであり卑怯なやりかたです。現在の

ことです。人口構成もバランスがとれており、親子共同の生活がありました。現在は、一戸建ての時代となり親子別々の生活がほとんどですが、親子間の距離は住居の位置とは関係ないものです。幸福とは、豊かさとは何であるかをもう一度考えてみる必要があるようです。

[child]

こどもたちと比べて、このこどもたちの表情の明るさは驚くほどです。「心の豊かさ」は、こどもたちだけに求めるのではなく現在の大人たちこそ心がける必要があります。



●「シェー」をするこどもたち【昭和30年代】
(小林長寿氏提供)

④ 学び舎

明治6年(1873)に開校した額田小学校は引接寺の庫裏、芳野小学校は一乗院が仮校舎でした。昭和10年頃、瓜連尋常小学校も常福寺が教室に使用されたようです。戦後は空襲にあった地域では青空教室もあったようです。

昭和22年から始まった中学校制度は、初め小学校に開設したのであり、中学校校舎建設は各市町村とも経済的に大きな問題でした。しかし、耐震強度は懸念されず、寒風吹き込む薄暗い木造校舎であっても、生徒たちにとっては深い思い出がいっぱい積もった学び舎であり懐かしさでいっぱいです。こうして積み



●常福寺境内で瓜連尋常小学校教員【昭和13年頃】
(佐藤長三郎氏提供)



●瓜連尋常小学校常福寺教室【昭和10年代】
(佐藤長三郎氏提供)

[school]

重ねられてきた日本の義務教育の徹底は、世界的にもすばらしいものがあります。
昭和48年(1973)前後には、開校百周年記念式典が各小学校で開催され、記念の航空写真なども撮影されました。生徒たちにとって、学び舎や恩師の思い出は、いつまでも人生の「心の支え」となっていることと思います。



5 まちなみ

[street]

「関東ローマ層を基盤とする茨城の道路は、砂利をいくらか敷き込んでもすぐにでこぼこ道となってしまう」と、当時の岩上二郎知事は嘆いていました。舗装率はなかなか向上せず、自動車の後にはモウモウと砂ボコリが上がっていました。

そのような中で、瓜連町には古くからの商店街がならび大売り出しなども行われ、活気を持っていました。しかし、車社会となつてからは、広い舗装道路や駐車場が求められ、街並みは郊外へと移りつつあります。

現在は、古民家や古い商家などが近代化遺産として文化財に認定される時代です。莫大な費用もかかりますが、街並み保存とその活用について、今後私たちに多くの英知が求められています。



● 瓜連町仲通【昭和9年頃】

(佐藤長三朗氏提供)



● 戸崎松並木の松【昭和18年】

(綿引博氏提供)



● 下菅谷駅前通【昭和初期】
(桧山正義氏提供)

6 戦争

[war]

世界から戦争は無くさなければなりません。現実の世界情勢には厳しいものがあります。しかし、戦争はあってはならないものであり、起こさせてはならないものです。



● 芳野村村葬【昭和19年頃】(那珂市史編さん委員会提供)

戦時中、国民は乏しさ、ひもじさにもめげずに必死に戦いました。銃後の生活では、竹槍訓練や軍事教練、防空訓練や援農作業、水戸北飛行場建設など戦時一色の中にあっても、助け合いや思いやりの精神が生きていました。隣同士の交流も多く、地域社会の結びつきはかなり強固なものがありました。

出征兵士たちは、上菅谷駅や瓜連駅など駅頭から歓呼の声で送り出されましたが、また反対に哀しい遺骨迎えもあり村葬も行われました。昭和14年は自宅での村葬でしたが、やがて小学校で合同の村葬が行われるようになりました。

自由を尊ぶとともに、艱難辛苦に打ち勝つ精神力も鍛えたいものです。

講演会

講演会のご案内

水戸藩の郡奉行たち

那珂市ゆかりの先人藤田東湖も務めた郡奉行とは？当時の郡制度や奉行の職務・政治姿勢から郡奉行の実像に迫ります。

日時 10月18日(日)

10:00~11:30

場所 中央公民館 講座室

講師 歴史民俗資料館長

仲田昭一

学芸員 中嶋圭子

参加費 無料

定員 40人(先着順)

申し込み・問い合わせ

歴史民俗資料館

☎297-0080